

NASH/NAFLD アップデート： 患者数急増時代の実践ガイド

非アルコール性脂肪性肝疾患 (nonalcoholic fatty liver disease : NAFLD) は飲酒量が多くないにもかかわらず脂肪肝を呈し、なかには慢性肝炎である nonalcoholic steatohepatitis (NASH) になり、その後、肝硬変や肝臓癌に至る、近年世界中で増加している疾患群である。わが国には 2,500 万人程度の NAFLD 患者がおり、そのうち 25% 程度が NASH に進展するといわれている。本疾患に関してはいまだ保険で認められた治療薬がない状態であり、ウイルス性肝炎である C 型肝炎ウイルス (HCV) 患者の激減と相前後して、肝臓癌の原因疾患としてこの NAFLD が取って代わってきており、臨床上解決されなければならない重要疾患である。

最近、NAFLD の疾患名称が欧米主導で「MASLD」に変更になった。本特集ではこの機会に病名変更の経緯の解説（「近年の NASH/NAFLD の動向」参照）から、疫学、病態、診断法、そして間もなく認可されるだろう新薬の

開発状況の最新の知見までを、第一線の専門医の先生に解説いただいた。

本疾患の患者の大多数は実地診療現場、特に糖尿病やメタボリックシンドロームを診療するプライマリ・ケア医の先生方のところにいるという点で、本特集は必ずや日々の診療でお役に立つものと確信している。この場を借りて著者の先生方に御礼を申し上げてご挨拶としたい。

本特集での最大の狙いは、プライマリ・ケアを担う実地医家の先生方が当該患者を診た際にどうすべきか、最近のガイダンスを提示している点である。疾患名が変わろうとも肝生検の必要性がなくなり、近年進歩してきた非侵襲的検査法をどう使いこなせるかが重要なポイントである。面白いのはいよいよ AI による診断方法がわが国でも登場する予定で、これこそまさにプライマリ・ケア医の先生方や健診業務を行っている先生方には非常に簡便であるため朗報となろう。ぜひご一読いただきたい内容である。

横浜市立大学大学院医学研究科肝胆膵消化器病学教室

中島 淳